

石部南学区

まちづくり協議会広報

平成23年5月15日発行

第14号

広報部会

発行：石部南学区まちづくり協議会 湖南市石部南 3-5-1 石部南まちづくりセンター内 電話 0748-69-7068

東日本大震災という未曾有の地震・津波・原発事故による災害に謹んでお見舞いを申し上げます。一日も早く復旧・復興されますよう心よりお祈り申し上げます。

皆様からの義援金¥1万3,865円(4月30日現在)は日本赤十字社を通して被災者の皆様に送られました。

平成23年度定期総会が開催されました

4月24日(日)午前10時より石部南まちづくりセンターにおいて、定期総会が開催されました。来賓を代表して、谷畑市長より挨拶をいただいた後、市川会長より平成22年度活動についての総括と、各専門部会の部会長より活動報告がありました。引き続いて平成23年度からの新組織についての説明があり、この組織での平成23年度活動計画と予算について審議が行われ、すべて承認されました。



平成23年度方針およびスローガン

経営方針

「自分たちのまちは自分たちでつくる」
どんなまちをつくりたいですか？

1. お年寄りや子供たち、また障がいのある方が住みやすいまち
2. 自然が美しいまち
3. 歴史・伝統・文化を大切にするまち
4. 安心・安全なまち
5. スポーツを楽しめるまち

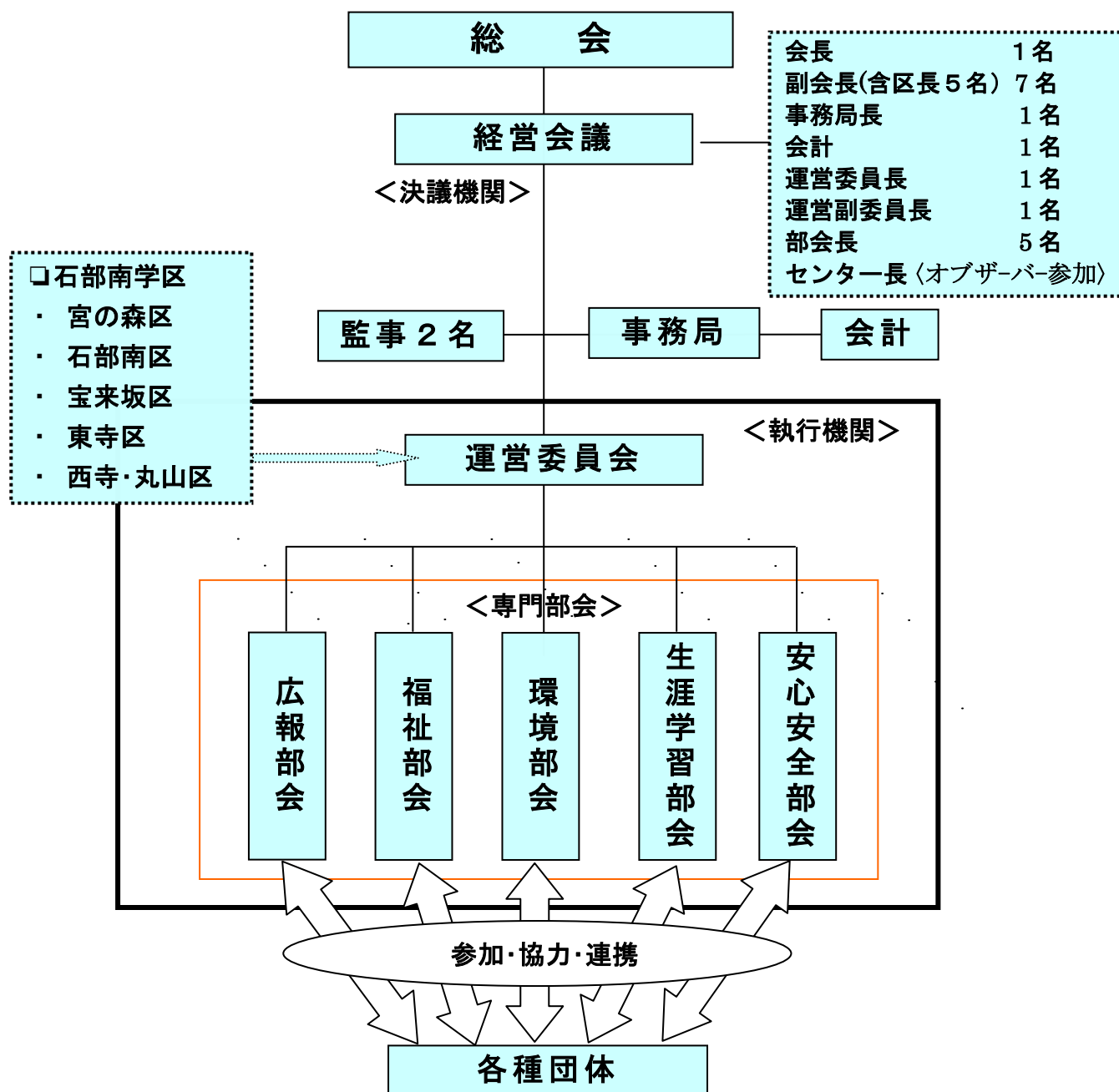
事業計画スローガン

22年度の重点取組は継続しつつ、

1. 安心安全・防災防犯活動
2. 認知度向上の取り組みを図る
3. 自治会・各種団体との関係を深め地域連帯感を強化する
4. 組織の見直し・強化充実を図る
5. 現行事業領域は更なる深耕を図る

◎「きらめきサマーフェスタ in 石部南学区」

平成23年度 まちづくり協議会組織図



- ・ 会長 市川徹二(宝来坂)
- ・ 副会長 山本清孝(西寺・丸山) 土居憲昭(石部南) 大島正秀(宝来坂区長・学区長)
東野信男(宮の森区長・副学区長) 黒木寛(石部南区長) 北村紀嗣(東寺区長)
竹内平一郎(西寺・丸山区長)
- ・ 会計 中村淑博(宮の森) ・ 事務局長 田中幸雄 (宝来坂)
- ・ 運営委員長 山本清孝(西寺・丸山) ・ 運営副委員長 土居憲昭(石部南)
- ・ 監事 竹内 孝(西寺・丸山) 野口隆世(宮の森)
- 《専門部会》・ 福祉部会長 森田数雄 (東寺)・ 環境部会長 磯田 仁 (宝来坂)
- ・ 生涯学習部会長 鶴飼 淳 (宮の森) ・ 安心安全部会長 荻田嘉弥 (石部南)
- ・ 広報部会長 小向賢太郎 (西寺・丸山) (敬称略)

新 部 会 紹 介

福祉部会

- 憩いの場所作り・安全な生活支援を各種団体と協力して実現する
- ・ きらめき湖南ペットボトル・イルミネーションタワー作製、ふれあい祭り参加
 - ・ 高齢者の交流、ふれあい支援
 - ・ 命のバトンの定着、活用支援

環境部会

- 自然・歴史環境の保全および環境美化運動の推進を住民と一緒に実現する
- ・ 美しい環境づくり 花壇の設置等
 - ・ 農産物の販売
 - ・ エコ活動の推進、ホテルの住む地域づくり、史跡マップづくり

生涯学習部会

- 1) 教育・学習を通じて協調と調和を図る
- 2) 文化芸術の振興・スポーツのとりくみによる地域との連帯感育成
 - ・ 文化芸術の発掘調査
 - ・ 声かけあいさつ運動、地元学講座の開催、ボランティア支援調査
 - ・ グランドゴルフ大会、健康ウォーク開催

安心安全部会

- 防災訓練・防災マップ作成等の活動により、安心・安全なまちづくりを目指す
- ・ 防災ワークショップ、防災マップ・ハザードマップ作成
 - ・ 防災訓練・自主防災組織・防災研修

広報部会

- 広報活動の充実を図る
- ・ 広報紙発行、広報掲示板の維持管理
 - ・ ホームページの維持管理、部員のスキルアップ
 - ・ 各区への認知活動、外部広報組織との交流

お知らせ

先に募集いたしておりました石部南学区のシンボルマークにおいて応募者少数のため、再募集を行います。募集期間は7月21日(木)から8月31日(水)までとし、募集要領は以前と同じ条件（詳細は回覧または「まちづくり協議会」のホームページをご参照ください）で、応募資格は湖南市在住か湖南市に通学の小・中・高校生、または湖南市に通勤の一般の方といたしますので、ふるってご応募ください。なお以前応募された方の作品はそのまま有効といたします。

おわび

3月26日(土)に予定されていた健康ふれあいウォークは東日本大震災により被災された方々への配慮をいたし、中止とさせて頂きました。開催に参加を予定されていた方々には多大なご迷惑をおかけしました。どうぞご理解をいただきますようお願いいたします。

石部南学区まちづくり協議会のホームページアドレス
<http://www.ishibe-minami.net/>

きらめきサマーフェスタ承認される

さる3月26日(土)に行われた湖南市の審査にて「きらめきサマーフェスタ in 石部南学区」が承認され、実施が決まりました。これから8月7日(日)に向けて準備が開始されますが、住民の皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

きらめきサマーフェスタ in 石部南学区

～いきがい・ふれあい・たすけあい～

開催日：平成23年8月7日(日)

開催場所：じゅらくの里

事業計画の目的

～いきがい・ふれあい・たすけあい～

在所と新興住宅地の交流を図る中で人材発掘し、その方々の
いきがいを

3世代の参画と交流の中で
ふれあいの心を・・・

福祉施設の皆さんと住民の交流の中で
たすけあいの心を・・・



大 成 功

開催場所：じゅらくの里



多目的広場



福祉センター



遊具施設

事業規模

参加者規模：2,000名

事業費総額：2,400千円

事業内容：

① ペットボトル
10,000本による
大型ツリーの製作 ⇒ 点灯



各区、各種団体、福祉施設等でそれぞれ分担し、製作する。



②レーザー光線による花火ショー

幻想の空間を演出します。



きっと夏休みの思い出になるでしょう！

石部南学区民の願い！

- ・住んで良かった
- ・長く住み続けたい
- ・ふるさとを後世に残したい

○ この事業を実施することにより、今後の活動に大きくプラスになることは間違いないと確信いたします。

○ 住民の皆様、並びに審査員の皆様、ようこそご支援お願い致します。

ありがとうございました。



石部南学区まちづくり協議会

各自治会活動だより

宝来坂区

恒例の「かなかなサロンたけのこ堀り」が4月30日(土)丸山竹林の里にて参加者 62名で行われました。例年より遅い発育のため2週間遅らせるも不作にもかかわらず、約70本程の収穫がありました。全員でたけのこ料理をいただき、お土産までいただきました。



宮の森区

去る4月17日(日)区住民全員参加で「春のクリーンキャンペーン」と銘打って、区内清掃を行いました。春の日差しに照らされて一堂汗をながしました。



東寺区



お菓子などいただき喜び子どもたち



東寺青年会・子ども育成会で5月1日(日)に恒例の「子ども神輿」が東寺区内を巡行する予定でしたが、天候が悪かったため中止となりました。そのかわり東寺多目的集会所で子ども27人と参加の大人とで、お菓子・ジュースをいただきながら楽しい時間を過ごしました。





◆紫雲の滝と近江の宮

聖武天皇が紫香楽に離宮を造営されたのは、天平 14 年(742)8 月、1269 年前のことで、その翌年、天平 15 年 9 月に大仏造立を発願して帝都にするための働きかけをされた。天平 16 年 11 月に甲賀寺において大仏の体骨柱が建てられるが、このあたりで山火事が多発したり地震も連発したことなどの事態の中で、天平 17 年 5 月に平城京に遷都したことから紫香楽の大仏建立は停止された。その間約 3 年間の離宮であった。

聖武天皇には皇子がなく日々皇子の誕生を願っていた。ある日、宮の東北の方角に紫雲たなびく山中に瀑布の傍の岩の上に修行僧がいるので、その僧に皇子誕生を懇願すればよしとの夢枕にお告げがあり、急ぐ勅使は山中に分け入り探しあぐねた後その僧に合い願いを伝えた。やがて皇女が誕生された。のちの「孝謙天皇」である。皇女誕生により天皇は安穩谷に七堂加藍を建立し、行基菩薩に命じて五天の子安地蔵を造らせ、天皇自ら皇女の育ちゆく末を願って長寿寺と号した。

紫雲の滝、阿星山は山そのものが神仏習合の山岳修行の場であった事から瀑布の傍の岩の上に僧がいた事は現実であり、その後はこの岩に不動明王が彫られた。これが長寿寺奥の院である。

天平 14 年(742~745)3 年間と短い期間の紫香楽離宮であったが、近江には過去三回、都が置かれた。紫香楽宮、大津宮、大津の都は紫香楽宮より 75 年前で天智天皇によって造営された都である。天智 6 年(667~671)で約 4 年間の短命の都であつた。比叡山東麓の琵琶湖畔に営まれ、前を湖に面して都の防衛の役割をはたしていたが、現在は湖底に眠っている。第三の都は保良宮といわれ、天平宝字 3 年(759)淳仁天皇が造営使を近江に派遣し保良宮の造営にあたらせた。スタートしてから二年後の 5 年(761)淳仁天皇と孝謙上皇が行幸され、この年の 10 月から翌年の 5 月まで平城京を改造のため天皇は政務をとったとある。宮跡は現在大津市国分二丁目の谷あいの音羽山の登山口あたりに「保良宮跡」の古い石碑が建てられているようであるが、はっきりとしたのではなく、石山寺の近くといわれ不明のため今も幻の都と呼ばれている。

この場に保良宮列記したのは、紫雲の滝と大きく関係があることからである。滝の岩の上の修行僧の荒行により聖武天皇に皇女が誕生された。紫香楽離宮では天皇政務は約 3 年と短い期間ではあったが、のべ 20 年間の即位であった。天平感宝元年(749)聖武天皇は譲位し阿位親王が即位した。内親王が僧の荒行のすえ誕生された皇女の孝謙天皇である。女性の天皇として天平勝宝 8 年(757)まで平城京において約 8 年間の政務についた。天平宝字 2 年(758)孝謙は譲位され淳仁天皇が即位し、それから 4 年後に孝謙上皇と淳仁天皇が 8 ヶ月という短い期間で逢ったが保良宮での滞在したとある。だが孝謙上皇の陰には藤原仲麻呂の野望があり、大きな陰謀の元に未完成のまま廃都となった短命の幻の都である。だが、近江の国に短い期間に 3 回都が置かれ、また、紫雲の滝と深いかかわりのある孝謙上皇がこの近江の地で滞在された事は意義深いものがある。

2003 冬